



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



写真: Photo by Tadao Murota

福井の自然史情報

ハネナシコロギスを麻酔するフクイアナバチ

フクイアナバチは子どものエサのために特定の昆虫だけを捕まえる（狩る）ハチです。
なんと、エサを腐らせないため、獲物を殺さずに麻酔して保存します。
ハチというと怖いというイメージだけが先行してしまいましたが、
じっくり観察してみると、そこには驚くべきハチの生態があるのです。



裏面に詳しい解説があります。



2008年3月22日 常設展示リニューアルオープン!!

新展示「足羽山自然大図鑑」

福井市のシンボルのひとつ、足羽山。

身近でありながら、まだまだ知られていないその魅力を1,000点以上の実物標本でご紹介！



標本が盛りだくさんの新展示！
なかでも「ここに注目」をご紹介します。

「足羽山のなりたち」コーナー

足羽三山の地形模型

この模型は、空から見た足羽三山の姿をイメージしてもらうため、等高線にあわせ精密に作られています。高さを1.5倍にしたので、地形の特徴がよく反映され、迫力のある足羽三山に仕上がりました。例えば、硬い石でできた八幡山の尾根はまるでアルプスのように切り立っています。逆に比較的軟らかい石でできた^{はちまんやま}兔越山は、なだらかな形です。ところで、この地形模型、よく眼を凝らすと、山の



色を塗り分けてあることに気がつくでしょう。緑色は主にコナラの林、暗緑色は、モミやスダジイの林、黄緑色は竹林を表しています。さあ、あなたも鳥の目になって足羽山を眺めてみませんか？

「足羽山の植物」コーナー

ノハラダイオウ

タデ科ギンギシ属のノハラダイオウは、帰化植物のエゾノギンギシとナガバギンギシから自然にできた雑種です。実や葉の様子から、両親の特徴をあわせ持っていることが分かります。また、実がならないものが多いことや、両親よりも大型であるという雑種ならではの特徴も見られます。2007年度に足羽山の加茂河原町と西墓地で見つかりましたが、これは福井県では初記録です。この他にも、福井県初記録となる、タデ科のギンギシモドキやシロバナイヌタデも足羽山で採集されました。見学した帰りに探してみるのも面白いかもしれませんね。



「足羽山の動物」コーナー

ニホンノウサギ

足羽山には、タヌキやアナグマなど11種の哺乳類が生息しています。しかしその多くが夜行性であることなどから、野外で出会う機会は少なく、その存在もあまり知られていません。そのなかで、ニホンノウサギは目撃例の多い哺乳類ですが、ペットとして飼われているアナウサギとは違い、後ろ足がとて大きく、頑丈にできています。展示では、そのかわいらしい顔つきだけでなく、体のつくりの違いにも注目してみてください。足羽山では、積雪時にこの大きな後ろ足と小さな前足の特徴的な足跡も観察できますので、冬の楽しみにもなりますよ。



「足羽山の昆虫」コーナー

ヤママユ

足羽山で見られる最も大きなガで、翅を広げると大人の手の平ぐらいになります。ガのなかまという嫌われ者のイメージですが、緑色の繭からとれる「天蚕糸」と呼ばれる糸は、通常のカイコの繭からの糸よりも品質がすぐれ、希少価値が高いために「繊維のダイヤモンド」と例えられています。また、この仲間の触角は羽毛のような、大変かわいい形をしています。普段怖くて近寄れない方も、ぜひその繊細な触角を実物標本をご覧ください。ちょっぴり好きになるとと思います。

ヒメヤママユの触角





おいでよ！
楽しい発見
いっぱい！



サクラをめぐる 生きものたち

足羽山のシンボルであるソメイヨシノは、お花見の桜として私たちを楽しませてくれるだけでなく、いろいろな生きものがその葉・樹皮・花・果実を利用しています。これらの生きものの生活について、写真や実物で紹介しています。これで花のない時期の桜も楽しめますよ！また、ソメイヨシノには実がならないと言われていますが、実際に足羽山のソメイヨシノには実がたくさんなっています。そこで、足羽山に多いソメイヨシノとヤマザクラを使って、交配・発芽実験をしました。さて、その結果はいかに。展示を見てのお楽しみ！



生命のゆりかご 都市の孤立森林

足羽山は市街地に近く、孤立した森林として存在しています。このような森林にはどのような動物が生息しているのでしょうか。体温に反応して自動的にシャッターがおりる特殊カメラや、中に入ると入り口が閉じるワナを使い、どのような哺乳類がいるかを調べてみました。福井平野に存在する他の孤立森林とあわせて、写真とイラストでわかりやすく紹介します。家の近くにどんな哺乳類がすんでいるのか、ぜひ展示で調べてみてください。



タヌキが 土に還るまで

山はどうして生きものの死骸でいっぱいになってしまわないの？こんな疑問にも実際の実験を通してお答えします。生きものが死ぬと動物に食べられたり、細菌などの微小生物に分解されたりして、最後には土に還っていきます。今回は足羽山で事故死したタヌキの死体が、足羽山の森の中で分解されていく様子をビデオで撮影し、どんな動物や昆虫がやってくるのかを調べました。展示では撮影した映像のダイジェスト版を放映し、そのときに採集された昆虫の実物標本も展示しています。



福井市自然史博物館第65回特別展

「春だ！桜だ！足羽山だ！新展示オープン祭」

平成20年3月22日(土)～5月25日(日)

博物館って展示品を見るだけ？いいえ、そんなことはありません！

リニューアルオープンにあわせた特別展示では、さわれて楽しめる標本をご用意しました！リニューアルオープンした展示ができるまでの舞台裏とあわせて、自然を調べる方法や標本を未来へ残していくことの大切さを伝えます。

昆虫のお面屋さん

普段はあまり見ることのない昆虫の顔をお面にしました。食べているものによって口の形が違ったり、触角にもいろいろあったりと発見もいっぱいあります。



葉脈を拡大してみよう

葉っぱに栄養や水を運ぶ葉脈を拡大してみましょう。その繊細で美しい世界にはため息がでますよ。



トリあわせ

鳥の巣ってみんな同じ？いえいえ、利用している材料や形などいろいろな種類があるので。カルタの標語で鳥の巣を当ててみましょう。



他にも「木の実の宝引き」や「ホネホネパズル」など、楽しい屋台がいっぱいだよ！

フクイアナバチについて

室田 忠男 (仁愛女子高等学校)

福井県の蜂の調査・研究は全国のトップクラスの精度を誇っています。それは長年、福井大学に奉職された故常木勝次博士^{つねきかつじ}に負っています。先生が県内産の蜂の標本を模式産地として、学名や和名に福井県内の地名や人名を付けられた新種の数には実に51種類にもなります。この中で和名にフクイが付く蜂は6種類います。

「福井県を代表する蜂は何か？」と問われたら、私はまずフクイアナバチをあげたいと思います。本種は珍しい蜂で、県域準絶滅危惧種に指定されています。体長が25-30mmもある大型の、全身漆黒のアナバチ(土の中に穴を掘り巣をつくる蜂)です。最もヒトの生活圏の中に入っている蜂で、人がいてもせつせと獲物を巣穴に運び入れる姿は妙に人慣れを感じます。彼女はヒトを敵とは思っていないふしがあります。長い間、人と共存してきたからかも知れません。生息地は足羽山を初めとする低山帯の麓で、庭に赤土を盛った所によく営巣します。

フクイアナバチは孤独性の蜂です。針は巣を守るためでなく、子虫の餌のハネナシコロギスを麻酔するためにあります。蜂を素手でつかめば、もちろん自分を守

ろうとして刺すことがあります。チクリとするぐらいで、痛みは間もなく消えるなど毒性は極めて弱いのです。私は何回も刺され、集団生活する社会性の蜂との違いを身をもって感じています。

本種は子虫の餌にハネナシコロギスしか狩りません。つまり、この蜂の生存はハネナシコロギスの生息に依存しています。ハネナシコロギスがなくなったら、子虫の餌をコオロギ類にでも変えればという考えは、長い間の習性(遺伝的に決まっている)で不可能なのです。絶滅の道をたどるしかありません。大安寺の保養所の庭に300個もあった大コロニーは、狩場の雑木林が道路工事で失われた後、1年で消滅してしまいました。

今、南越前町で貴重なフクイアナバチを守ろうとして、町がこの蜂の営巣地をキャンプ場近くに移し、子どもの野外活動と理科観察の場にしようとする新しい試みをはじめています。皆さんの庭にも貴重なフクイアナバチが営巣しているかも知れません。7月下旬から9月上旬頃に、黒色の大きな蜂がハネナシコロギスを運んでいたら、それはもうフクイアナバチに違いありません。私たちはこれからも豊かな自然を守りながら、自然から多くのことを学んで行きたいものです。



■写真1: 麻酔したあと、自分の体重より重いハネナシコロギスの触角のつけねを大あくでくわえ、脚で支えて巣穴へ運びます。



■写真2: 獲物を一旦巣の入り口に置き、頭から中に入ります。次に、巣の中で方向転換して頭から出てきて、獲物を巣穴に入れます。



■写真3: フクイアナバチが巣に入り方向転換をしている一瞬のすきをついて、寄生バエが獲物に卵を産みつけています。これはフクイアナバチにとって最大の危機です。

《あとがき》

足羽山にはなんと300種以上のハチが生息していることが、今回リレーエッセイを書いていただいた室田先生を含む日本蜂類同好会のみなさんの調査で明らかになりました。徹底的に調査をするとすごい結果がでるものですね。また、表紙の写真上方の植物(カタバミのなかま)を注目してください。どれほど小さい虫の生態を撮影しているのかよくわかります。今回、同会のみなさまが、採集された約1,000点ものハチを当館に寄贈してくださいました。第65回特別展で、福井県初記録のハチ5種も含んで展示しておりますので、ぜひご覧になってください。(安曾)

《交通案内》

《電車》

福井鉄道福武線 公園口駅 徒歩20分

《バス》

コミュニティバスすまいる:西ルート(足羽:照手方面)

愛宕坂バス停 徒歩10分

京福バス運動公園線(70号系統) 久保町バス停 徒歩15分

《徒歩》

JR福井駅から徒歩30分

《ご利用案内》

開館時間 ●午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)

休館日 ●月曜日(祝休日は開館)、国民の祝休日の翌日、年末年始

入館料 ●高校生以上100円(20名以上の団体は半額)

中学生以下、70歳以上、

障害者および付添の方は無料

